

平成 29 年度 大阪成蹊女子高等学校 学校評価

1 めざす学校像

- ① (女子教育の推進と人間力育成) 本学園の建学の精神である「桃李不言下自成蹊」と、「忠恕」の行動指針に基づき、「思いやりがあり、誠を尽くし人の立場にたって考え行動できる人材」、また社会に求められる「自立し、品格ある女性」を育成する学校
- ② (キャリア教育の推進) 女子に特化したキャリア教育を教育の柱として、女性として自主的に生きる力を育み、社会が必要とする資質や能力を育てる学校
- ③ (学力向上) 「確かな学力」の定着と向上をめざし、アクティブラーニングを取り入れるなど、個々の生徒のニーズに応じた多様な学習を展開する学校
- ④ (グローバルな人材育成) グローバル社会に求められる多文化共生のマインドと豊かな国際感覚を育むとともに、社会に不可欠な「使える英語力」の向上を図るなど、国際教育を推進する学校
- ⑤ (多様なコース設定で夢を実現) 普通科「キャリア進学コース」、「幼児教育コース」、「スポーツコース」、「キャリア特進コース」と美術科「アート・イラスト・アニメーションコース」の特色ある教育内容を高め、生徒の夢を実現する学校
- ⑥ (人権教育の推進、安全で安心な学校) 建学の精神を踏まえ、共生の観点を基本として他者を敬い、自己を肯定できる人権感覚を育むとともに、いじめのない安全で安心な学校

2 中期的目標

1. 学校教育力の向上

- ① 教科指導力の向上と、生徒のニーズに応じた多様な学習の展開
昨年、近年最大の入学生を迎え、学力幅の大きい生徒集団への教科指導に、様々な課題が見出された。学習進度の遅い生徒への基礎学力の定着はもとより、成績上位層の生徒への更なる学力向上に向けた取組みを強化する。そのため、一方向の座学形式の授業を脱却し、アクティブラーニングを取り入れるなど、生徒主体の授業をめざす。
また、授業評価アンケートの成果を有効に活用し、研究授業等を通して教科指導力の向上をめざす。
- ② グローバルなキャリア教育と国際教育の推進
平成 26 年度から実施している「グローバルなキャリア教育」の更なる充実をめざす。本年度新たに設置する学校設定科目「グローバルスタディ」の円滑な開講に加えて、すべての教科の学習に国際教育の観点を取り入れる工夫を行う他、海外研修や海外修学旅行前の事前学習の内容を更に充実させる。
また、海外研修や国際交流を維持、充実させるほか、海外からの留学生を積極的に受け入れることとする。
- ③ 各種検定対策の充実と成果の向上
生徒の学習意欲を高め、生徒の達成感を育むことをねらいとして、全生徒が受験する漢字検定・GTECやTOEICブリッジ(スコア型英語検定)・秘書検定のほか、料理検定・歴史検定など各種検定の合格率や到達度の向上をめざす。
- ④ 時代の要請に対応する「使える英語」教育の推進と ICT 機器の活用
学園が提携したベルリッツ・ジャパンによる課外の英会話講習(イングリッシュセル)や、NETを活用した授業の充実を通して、生徒の「使える英語力」を高める。とりわけ、英語 4 技能の中でリスニング・スピーキングを大切にすオールイングリッシュでの英語授業も行うなど、「使える英語力」の育成を積極的に展開する。
全教室に設置した液晶モニターやロールスクリーン、i-Pad、電子黒板等を有用な場面で積極的に活用する他、すべての教科・科目において日々の授業の中で ICT 機器・視聴覚機器の活用を積極的に進める。

2. 指導力充実によるコースの特色化と生徒募集力の維持

- ⑤ 進路指導の充実と内部進学者の確保
本校のキャリア教育を推進し、キャリア科目を中心として主体的に進路を切開く力を育成する。また、進路指導部の指導のもと、担任をはじめとする全教職員は、生徒の多様な進路選択を尊重しつつ、学園全体の発展を見据えて併設大学・短大への内部進学を最優先とする。当面の内部進学率の目標は、在籍者の 60%とする。
また、平成 30 年度に新たに開設する国際観光ビジネス学科や、小・中・高等学校の教員免許取得コースへの生徒の誘引を積極的に図る。
- ⑥ 生活指導の充実と、いじめ防止対策及び人権教育の推進
全教職員による生活指導(服装指導・頭髪指導等を含む)の徹底を図る。中学生・保護者から信頼され、健全な学びができる学校の基盤は、生活指導体制の充実である。全教員の共通理解のもとで、コース・学年を越えた全員指導を徹底する。
平成 26 年度制定の「学校いじめ防止基本方針」を踏まえ、本校でのいじめ対策について全教職員の共通理解を求める。また、建学の精神を踏まえた、誠実さと他者への思いやりの姿勢の育成、更に自己肯定感を養い、自尊感情を醸成する「成蹊 pride」の趣旨を徹底させる。生きる力として、お互いの人権を尊重する教育を推進する。
- ⑦ 部活動の活性化と生徒の自主性の育成
生徒の主体的な活動である生徒会活動、各種委員会活動及び部活動への参加を積極的に推奨する。特に音楽系の部活動の更なる活躍をめざして、外部指導者の活用など、部活動の活性化に努め、生徒の自主性や課題解決力の育成を図る。
また、スカラシップ等の柔軟な運用を図り、部活動優秀生徒の獲得にも努力する。
- ⑧ 2 学科 5 コースの安定した学校運営と募集活動
平成 28 年度より、普通科キャリア進学コース、幼児教育コース、スポーツコース、キャリア特進コース、美術科アート・イラスト・アニメーションコースの 2 学科 5 コースとなった。美術科として 2 年目の安定した体制づくりが必要である。
今後の私立高校を取り囲む様々な環境の変化に関わらず、常に生徒が集まる魅力ある学校をめざす。そのため、各コースの特性に応じた社会のニーズに応える新たな教育力の向上をめざす。
平成 30 年度の生徒募集の目標は、現在の教室数の確保から、キャリア進学コース 200 名 5c1、幼児教育コース 150 名 4c1、キャリア特進コース 35 名 1c1、スポーツコース 35 名 1c1、美術科 90 名 3c1、計 510 名 14c1 とする。

3. 学校運営

- ⑨ 全職員が一体となった学校運営と中間管理職の職務
校長を中心に全教職員が一体となった学校運営の維持に努め、「チーム成蹊」としての組織力を強化する。とりわけ、中間管理職である学科長及び主幹・副主幹は、コース主任や分掌長との連携を深め、校長から任じられた職務について責任と権限をもって、校長の示す経営方針に基づく学校経営に努める。
- ⑩ 評価育成システムの導入と教員のスキルアップ
実施 5 年目の評価育成システムは、校長の進める学校経営に主体的に参画することを前提に、PDCA サイクルに基づいて個々の教員が目標設定を行い、校長等の支援のもとで目標達成に向けた取組みを個々の教員が行うものである。教員の取組みを評価し、その能力の育成することで、個々の教員の資質向上と学校力の向上を図る。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
○生徒アンケート結果 [平成 29 年 12 月実施分] (抜粋) ・「学校生活が楽しく充実している」と回答した生徒は全体の 82% で例年どおり高い割合であった。 ・「所属するコースに満足している」という回答は、スポーツコース	第 1 回 平成 29 年 6 月 22 日 全委員出席 ○本年度教育方針について ・教育方針の「めざす学校」「中・長期の教育目標 (10 の戦略)」は、学校の進む方向性が明確で、わかりやすい。この目標を全教員に十分説明し、共有化することが重要で

<p>が93%で最も高く、美術科が91%と続く。また全体でも86%ときわめて高い水準である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に関するアンケートでは、「文化祭や体育祭などが楽しく行われている」とした生徒は全体の73%で昨年と同様。特に、「スポーツ」は89%で、一方「キャリア進学」は68%で最も低い。コースの特性が現れている。 ・「この学校には他校にない特色がある」とした生徒は78%で例年通りである。コース別では美術科85%、「スポーツ」70%、「幼児教育」82%、「キャリア進学」76%、「キャリア特進」81%である。 ・肯定的回答が半数を大きく下回ったのは、「生徒会活動に積極的に参加している」の36%だけである。生徒会の活性化をめざす必要がある。 <p>○保護者アンケート結果「平成29年12月実施分」(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この学校には他校にない良さがある」は昨年よりさらに増えて94%に達した。特に、美術科では98%でたいへん高く、次いで「幼児教育」、「スポーツ」の95%、「キャリア特進」の91%、ついで「キャリア進学」の90%となっている。 ・「併設の短大・大学を有する総合学園の長所が生かされている」という回答は88%で、昨年よりさらに1%増で、非常に高い数字である。 ・「進路指導が充実している」は、全体で78%である。特に「幼児教育」が86%、美術科が80%と高い割合である。 ・肯定的な回答は全体では50%を下回るものはなかったが、コース別では唯一「キャリア特進」が「学習と部活動が両立」で昨年よりも5%増ではあるが、42%と低かった。 ・教育目標の一つである国際教育について、「学校はグローバル化に対応して国際教育を進めている」が昨年の80%から87%に増加した。 <p>○アンケート結果の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者とも、5コースの教育内容及び本校の特色をよく理解していただいております。学びの満足度も高い。毎年、肯定意見は増加の傾向にある。学校の努力が一定の成果につながっている。 ・3年前から学校の特色として国際教育を柱とする「グローバルなキャリア教育」としているが、保護者の理解は大幅に進み、今年さらに7%増加して87%にまで達した。 ・すべての項目で肯定意見が大きく上回っているが、改善の余地があるものとして、「学校からの通信や文書などで、学校の様子を家庭に伝えること」やさらに「教員の進める授業への更なる工夫」などがあげられる。 	<p>ある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ラインズドリル」の導入、「成蹊ゼミ」の実施、「海外グローバル研修」で全員に奨学金を支給、「台湾金陵女子高級中学」との交流など、校長のリーダーシップのもと組織力が十分に発揮されている。 ・教員の指導力と学力の向上をめざしアクティブラーニング研修の実施、ASPnet(ユネスコスクールの学校ネットワーク)への加盟、各種検定対策の強化、「ベルリッツ英語会話講習」の人数枠の拡大、内部進学者の確保、いじめ防止の対策、安定した学校経営、中間管理職の強化、教員評価とスキルアップなどの取り組みは学校力の向上に結びついている。 <p>第2回 平成30年3月14日 委員1名欠席</p> <p>○学校評価アンケートの分析と英語教育の改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者の評価アンケートでは、生徒・保護者とも「学校生活は楽しく、充実している」と高い評価であるが、主に学校生活・学校行事に関するものが特に高い。一方、生徒の学力向上に関わる内容「授業改善等について」は努力すべき余地がある。 ・今年度全教室にTVモニターを設置をしたことから、各教員の意識も高まり授業でのICT活用への取組みが進んだ。更に発展した利用方法を試すべきである。 ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」の評価が高くなっているが、2年前の委員からの提言によるアクティブラーニングの充実が様々な授業で図られてきた成果であると考えられる。 ・学校の特色、各コースの学び、進路保障等について、保護者の理解は他校に比べて、突出して高い。本校へ期待して入学してくる生徒・保護者が90%近いのは、他の私立高校(公立併願が多い中)では見られない数字である。受験において、専願受験が多い女子校という結果を反映している。この状況を維持するよう努める必要がある。 ・成蹊ゼミなどの学びの充実は一部の優秀者だけでなく幅広い生徒を視野に入れており大いに評価できる。 <p>○新美術棟の工事現場の見学(1階が食堂、2～4階が美術教室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府立高校ではありえない色使いの食堂で、空間の使い方もすばらしい。 ・教室が通常より大きく、スペースに余裕があり落ち着く。また、各階に設けられた共用スペースがよく、何か取り組みができそうだ。 ・地域への開放を考えて「成蹊カルチャースクール」や「成蹊文化講座」などを開催するという使い方もあるのではないかと。
--	---

3 中長期の目標と、本年度の取組内容及び自己評価

目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学校教育力の向上	(1) 学力向上に向けた教員への指導力強化対策			
	ア 教員の評価育成制度の導入5年目にあたり、学ぶ力の育成に向けた、PDCAサイクルでの自己点検・自己評価の充実を図る。	ア 年度当初の校長の示す教育目標に沿って、教員各自が教育目標を設定し、PDCAサイクルに基づいて、日常的な振り返りと授業点検を行う。	ア 全教員を対象に評価育成制度への円滑な実施	ア 評価育成制度での自己点検制度は、全教員対象に円滑に実施できた。
	イ 授業公開・研究授業を積極的に実施し、指導力の向上を図る。	イ 日常的な教科指導の振り返りに管理職の関わりを深める。また、全教科で授業公開・研究授業を積極的に実施し、授業点検を進める。	イ 授業公開の実施 研究授業の実施 回数と成果	イ 授業公開週間は順調に実施できた。また、実技科目以外の全教科で研究授業を実施。研究授業後の協議と反省会の内容も質的に向上できた。
	(2) 学力の定着に向けた教科指導の充実			
ア 学習進度の遅い生徒への基礎基本の教科指導の充実	ア 従前、個々の教員が授業の中で見出した学習進度の遅い生徒に対して、定期考査前の放課後や長期休業日を活用して、個別対応で補習等を実施する。	ア 生徒の成績分布と学力不振生徒数	ア 昨年度から、新たなシステムとして入学前学習のLINEドリルを導入した。1年生で成績不振なものは、放課後の「成蹊ゼミ」を開講し個別対応した。	
イ 成績優秀者への、更なる発展的学習の充実	イ 希望する進路先に必要な学力保障を行うため、長期休業日での、外部予備校等の補習学習を充実させるほか、個別指導の充実を図る。	イ 成績優秀生徒数の増減、外部模試での偏差値	イ 進路に応じて個別対応を充実させた他、成績優秀者への奨学金付き海外研修の優先枠配置など、褒賞制度を充実した。	
(3) 人間力の育成				
ア 人権教育の充実	ア LHRでの人権教育をはじめ、すべての教科で豊かな人権感覚を育む取組みを積極的に進める。	ア 人権HRや全校朝礼での講話等での実施回数	ア 毎月はじめの全校朝礼における校長講話、生徒指導部長訓話の中で、継続的な人権教育を行った。 学校設定科目に昨年度から1年キャリア進学で「ホスピタリティ」を開講し、心の成長として福祉マインドの育成を図った。	
イ いじめ防止	イ 「いじめ防止基本方針」に基づき、年2回の全生徒への「いじめアンケート」を実施し、生徒の状況把握を的確に進め、迅速かつ適切な対応を図る。	イ いじめ防止アンケートの実施結果と活用状況	イ 「いじめ防止基本方針」に基づき、年2回の「いじめアンケート」を実施した。この結果、未然防止に役立った。平成29年度のいじめ件数はゼロであった。	

<p>1 学校教育力の向上</p>	<p>(4) グローバル教育の推進とユネスコスクールの加入 ア 海外研修・国際交流の拡大 イ ユネスコスクールへ加盟 ウ 短期留学生の受け入れ</p> <p>(5) 使える英語力の向上 ア 放課後のベルリッツ英会話の充実 イ 英語検定に代わる GTEC の実施 ウ NET活用の充実</p> <p>(6) 学園内高大・高短連携と内部進学率の向上 ア 学園内の高大・高短連携授業数の拡大 イ 内部進学率の向上</p>	<p>ア 昨年度からクラス単位の全コース海外修学旅行を実施している。台湾国際交流は毎年交流事業を行い、国際教育を推進する。 イ 世界中の小・中・高校 10,000 校が加盟するユネスコスクールに加盟申請を行う。 ウ 本年度は 3 名(昨年も 3 名)のアメリカからの短期留学生を受け入れ、本校の国際教育の充実を図る。</p> <p>ア スピーキング、リスニングの強化をめざして、ベルリッツ社による無償英会話教室の充実を図る。 イ 3 年生を除く 1 年、2 年の生徒で英検に代わって、GTEC の検定実施を検討する。 ウ NET (外国人英語教員)による少人数授業の充実を図る。</p> <p>ア キャリア進学コース及び美術科での連携授業の質的、量的拡大を図り、他コースでの積極的な連携授業を企画、実施する。 イ 内部進学率 60% を目標に、進路指導の充実を図る。</p>	<p>ア 海外研修の拡大の成否と、生徒の修学旅行のアンケート分析 イ ユネスコスクール加盟審査結果 ウ 受け入れる短期留学生の数と受け入れ後の成果</p> <p>ア 英会話参加生徒数と出席状況 イ GTEC 実施の有無 ウ 生徒授業評価アンケート結果</p> <p>ア 連携授業数と生徒の授業評価アンケート結果 イ 内部進学率</p>	<p>ア 2 年全コースでヨーロッパ、カナダ、ニュージーランド、オーストラリアへの海外修学旅行を実施。生徒の海外研修の満足度は大変高く、9 割以上の生徒が評価した。台湾国際交流では、6 月に受け入れを 12 月に訪問を行うことができ、相互交流事業として成功した。 イ 現在パリ本部に申請中。平成 30 年度中に認可される予定。 ウ アメリカから 3 名の留学生を受け入れ、受け入れクラスでの国際交流が深まった。</p> <p>ア 5 講座 100 名に拡大し、希望生徒は 260 名。 イ 予定どおり 1 年、2 年生で GTEC を円滑に実施。生徒の英語力の実態把握に役立つ。 ウ モーガン先生とマリア先生の少人数制英会話学習は、生徒から高い評価であった。今後外国人教員の増員を検討する。</p> <p>ア 平成 29 年度の学園内連携授業は全コースで実施し、大幅増の 80 講座以上行なった。内容の改善もはかり生徒アンケートの評価も高くなっている。 イ 本年度の内部進学率は 51% で、昨年 55% より 4% 下がっている。さらなる努力の必要がある。</p>
<p>2 コースの特色化と生徒募集力の維持</p>	<p>(1) 募集の強化 ア 入学者の確保に向けた取り組みの更なる充実 イ 募集広報戦略の強化と、広報の充実を図る。</p> <p>(2) コースの特色化 ア 各コースで教育内容の充実と募集戦略の強化を図る。 イ 専門学科の美術科の円滑な立ち上げ</p>	<p>ア 生徒募集の強化策として、オープンスクールでは全教職員体制を徹底する。隔年現象での減少量を最小に抑え、生徒のプレゼン力の向上、新規 DVD の作成等、内容の向上と新規の募集対策を工夫する。 イ 5 コース説明のレベルアップのために、コース別説明を点検する全体研修を実施する。</p> <p>ア 各コースでの特色ある取り組みをさらに鮮明化し、中学生とその関係者への情報発信力の強化に努める。また併設大学との連携型教育を充実。 イ 専門学科の美術科の立ち上げを円滑に行い、施設・設備の拡充に努める。</p>	<p>ア 平成 30 年度の入学者目標は 500 名以上 イ 新しい DVD、TV 放映等の新規企画の実施有無</p> <p>ア コースの特色を鮮明にした取組内容 イ 美術科の運営</p>	<p>ア 平成 29 年度は 549 名、平成 30 年度は 505 名の入学者数であった。ここ数年、府内私立女子校では No.1 の入学者を維持した。 イ 新たなパンフレットを作成、2 社で TV 放映。また、ミスタードーナツと提携。</p> <p>ア コース説明のパンフを新たに作成。コースの特色あるイベントも新規実施した。 イ デザイン棟に続き、新美術棟も完成した。生徒増の中でも円滑な学科運営ができています。</p>
<p>3 学校運営</p>	<p>(1) ミドルリーダーの育成 主幹、副主幹を中心とする中間管理職の役割を明確にし、管理職とコース主任・部主任との連携の下、学校運営を円滑に行う。</p> <p>(2) 会議の効率的な運用 職員会議をはじめとして、各種委員会の機能の充実と、効率性の向上を図る。</p>	<p>主幹、副主幹の職務を職員会議で明確化し、各コース主任・分掌長での業務分担を整理する。また、各ポストの教員と管理職との連携を密に行い、管理職とコース主任・部主任との協議の場である校務運営会議を活用する。校長のマネジメント力を発現できる組織体制をめざす。</p> <p>生徒との対応時間の確保のため、職員会議をはじめとして校務分掌会議、コース会議、その他各種委員会の会議は、最小回数かつ最短時間で効率的な会議をめざす。</p>	<p>各ポスト教員との個別相談や面談機会の回数</p> <p>会議の効率化の状況 会議の実施回数 平均の会議時間</p>	<p>各ポスト教員の校長室への個別案件等の相談回数等は、1 日あたり 5 件を上回っている。 学校経営は、校長・副校長のリーダーシップのもとで安定化の傾向にある。</p> <p>会議の実施回数は前年度より減少の傾向。職員会議は 1 時間以内になっているが、コースや部の会議については、まだ改善の余地がある。</p>

4 今後の改善方策

<p>1 学習指導の充実 自宅学習システムの LINES ドリルの実施・継続。1 年生対象の放課後の基礎復習講座「成蹊ゼミ」の充実。アクティブラーニング型授業の研究授業実施。e-ポートフォリオの平成 30 年度内導入。評価育成制度に基づく管理職の授業評価の充実。ベルリッツ社による英会話教室の原則 1 年生全員参加への条件整備。</p> <p>2 グローバル教育の充実 オーストラリア語学研修の行き先をクインズランド州のトゥーンバに変更し内容を充実する。ニューヨークへのキャリア研修とセブ島への語学研修を平成 31 年度にバージョンアップする準備を進める。コース毎の海外修学旅行の実施を継続する。ユネスコスクールへの加盟を果たし、ESD (持続可能な発展) 教育の取り組みを展開する。</p> <p>3 コースの特色化と生徒募集力の維持向上 各コースの特色ある教育活動を更に充実させる。本年度も全教職員を対象とした募集対策の研修を強化し、500 名の生徒募集に向けて最善を尽くす。</p>
--